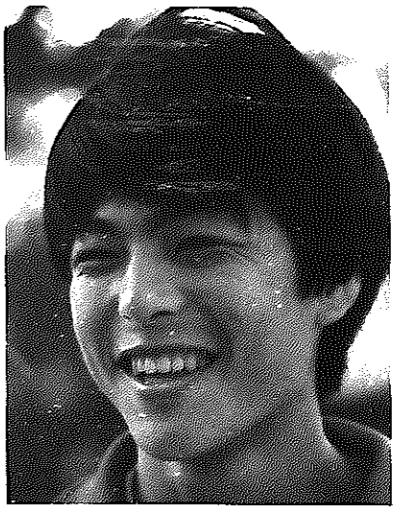




中学3年生、最後の大会へ臨む

2年半の思いを込めて

六月四日、市内中学総体を皮切りに、三年生最後の大会が幕を開けます。郡市大会、地区大会、そして県大会へと続く夏。わが白根勢はどこまで夢をつなげられるでしょうか。
勝っても負けても、二年半の間打ち込んだ部活動はもうすぐ終わり。生徒たちの胸にもいろんな思いがよぎるようです。最後の夏前に、五人の中学生からお話を伺いました。



勝負に絶対はない、部員全員で戦う

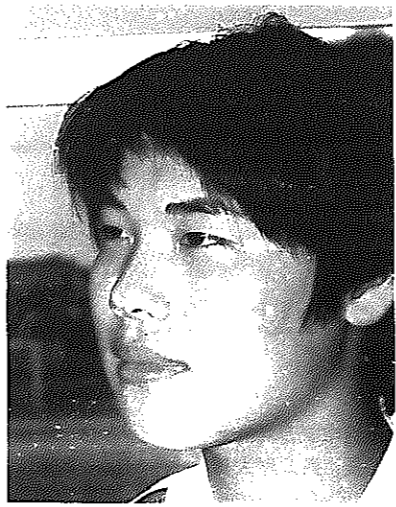
庄瀬中学校サッカー部 高地雅史くん

全員で攻め全員で守るのが庄瀬中サッカー。キャプテンマークを付けた高地君のポジションはオフフェンシブハーフ。「一つのパスがチャンスになったりピンチを招いたりする」という難しい役割をこなしながらチームを引っ張ります。
自ら「中学時代、最高の思い出」とする昨年の地区大会決勝、庄瀬イレブンは、明らかに格上のチームを一丸となつて撃破。見事、優

勝を成し遂げました。「あのとき「勝負に絶対はない」というのが心に染みて分かった。みんなが立ち向かった結果、心に残っています」と言います。
「部活をやることで、みんなをまとめる力が着いてきたと思う」という高地君。笑顔の優しいキャプテンは「レギュラーはもちろん、十二・十三番目の選手が頑張ることでもっともつと強くなれる」と、



全体を見渡すことを忘れません。一枚岩の庄瀬チーム。最後の大会、狙うはズバリ「県制覇」です。



一球一球を大切にしていきたい

新飯田中学校卓球部 白野敬文くん

「楽しい部活でした。つらいこともあったけど。先輩と練習したことなんか、よく覚えています」と、白野君は二年半を振り返ります。
いろんな思い出の中でも一番心に残っているのは、やっぱり「試合に勝ったこと」。特に「一年生のころ、ある大会で勝ち進んだことがあって、あれはうれしかった」と言います。一方「いっぱい練習

したので試合では負けてしまうこともありました。そういうのは悔しかったですね」とも。
部活動総仕上げの目標は、地区大会へ駒を進めること。今は「みんながまとまって、気合いを入れて練習している毎日」だそうです。「負けたら終わりだから、プレッシャーはあります。三年生はみんながそうだと思う。でも、一つでも多く勝てるよう、一球一球を大



切にして頑張りたい」と期待を語ってくれました。



勝負へのこだわりを持って

北中学校野球部 相馬謙司くん

「部活をすることであいさつやお礼がきちんと出来るようになりました。礼儀が備わったと思います」という相馬君。しっかりと受け答えに、キャプテンの頼もさが漂います。
エース、三番。守備、攻撃の両面でチームの要です。「大会が近づき、みんなのやる気とまとまりが出てきた。目標は県大会出場」と抱負を語ります。

小学四年生、スポーツ少年団で野球を始めた彼にとつては勝敗も重要なポイント。「大事な場面で打てなかったりストライクが入らなかつたりして負けたときは悔しい。自分自身が情けないし、チームメイトにも申し訳ない」。それだけに「勝利投手になったとき、チームが勝ったときは本当にうれしいですね」と言います。「最後の大会は勝ちたい。その



ためにもみんなで声を出し合せて、勢いに乗っていききたい」と目を輝かせました。



楽しいチーム、悔いのないように

白井中学校バレエ部 小林由紀さん

「メンバーがそろったときは、本当に明るいし、楽しい」というのが、部長の小林さんのチーム評。「よくまとまっていると思います」と和を強調します。
大会を前にさまざまな事情でベストメンバーでの出場が危ぶまれましたが、何とか事態も好転。一丸となつて戦える見通しがつき、「今度は大丈夫そう」と声も明るくなります。

激しい種目だけにけがも付きもの。小林さん自身も足をねんざして試合に出れない時期がありました。「あれが一番つらかったですね」と振り返ります。
「今までは、試合になると雰囲気にもまれてしまうことが多かった。一度ミスし始めると、崩れていってしまつて。今度は声を出し合い、自分たちの力を出し切りたい。悔いのないように」。優し



い笑顔を一転、しっかりと語ってくれました。



演奏の楽しさを見つけられました

第一中学校吹奏楽部 落田幸子さん

昨年の秋の県大会で金賞。Bの部(三十四人以下)で県代表として西関東大会へ出場した実績を持つ一中吹奏楽部。落田さんはクラリネットを担当しながら、部長としてみんなをまとめます。「一人ひとりの気持ちがいかにいいと、うまくいかない。そこが吹奏楽の難しい点であり、楽しい点」と言います。
入部してからの一年半を振り

返って一番良かったのは「楽器と知り合えたこと。そして演奏の楽しさを発見したこと」ときっぱり。「とにかく楽器を演奏することが楽しい。個人的に吹くのも好きです。もちろん高校へ行っても続けたい」と言います。
最後の大会を前にしてAの部(三十五人以上)への転換を図ろうという同部。落田さんの統率力もこれまで以上に問われてきます。



「まずは悔いの残らないようにやりたい。そして県大会出場ですね。目標に向かって練習は続きます。」